

## 道の駅あらお（仮称）の施設配置計画について

## ◆ゾーニング・動線計画の基本的な考え方

## ①有明海沿岸のロケーションを活かす空間演出

- ・有明海沿岸に立地する強みを活かし、有明海の大パノラマや夕陽の眺望を活かす空間演出を行います。

## ②周辺施設との機能連携の効果が高まる施設配置

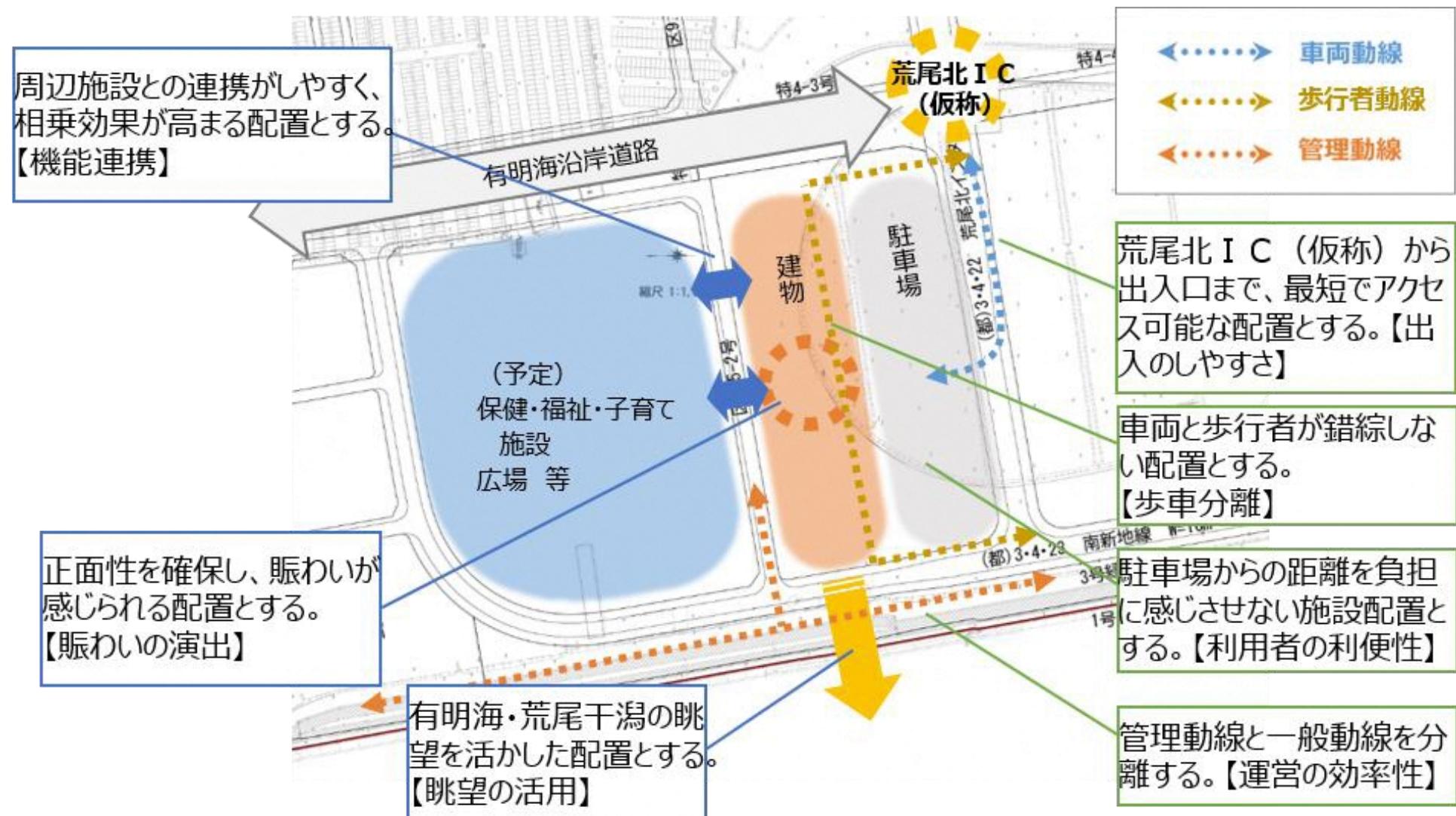
- ・周辺施設との機能連携を重視する施設配置により、連携による相乗効果を最大化します。
- ・特に、重点ターゲットである「20～30代ファミリー層（特に女性）」に魅力を感じてもらえるよう、子育て関連機能との連携等を重視した施設配置を行います。

## ③利用者・運営者双方にとっての利便性・安全性を確保する動線計画

- ・利用者にとっての利便性・安全性はもちろんのこと、運営者にとっての運営のしやすさや、双方の動線の錯綜の回避等に留意した動線計画とします。

## ◆施設配置の前提条件

上記の基本的な考え方を踏まえつつ、国道389号及び有明海沿岸道路からのアクセスを前提として、計画地における施設配置条件を、以下のとおり整理しました。

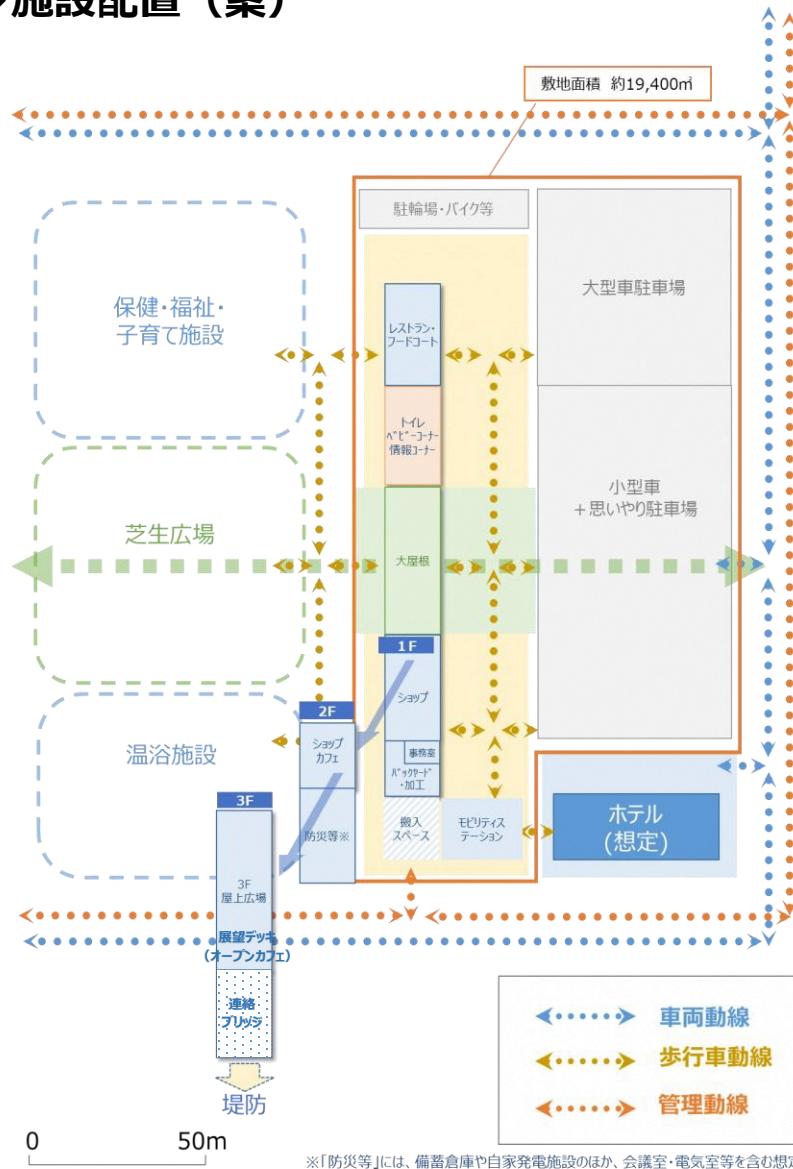


## 道の駅あらお（仮称）の施設配置計画

## ◆施設配置の考え方 主な施設の配置の考え方は以下のとおりです。

レストラン・フードコート	集客性を確保するため1階に配置する。また、保健福祉子育て支援施設利用者の立ち寄り需要を見込めるよう、保健福祉子育て支援施設と近い位置に配置する。
カフェ	落ち着いた雰囲気 연출しやすく、かつ屋上階の展望デッキをオープンカフェとして一体的に運営する場合に、一体的に運営しやすいよう2階に配置する。
ショップ等	集客性を確保するため、大屋根広場に隣接する1階に配置。自然に上の階に足を運んでもらえるように工夫する（一部を2階に配置し、スキップフロア等の空間演出で空間的な連続性を高めるなど）。
大屋根	賑わいの核として、施設の中心に配置する。曜日や季節限定のマルシェなどでの活用を想定し、ショップと一体的に利用できる配置とする。
トイレ等	広場やレストランからアクセスしやすいよう配置する。
防災	備蓄倉庫、自家発電機等の防災機能は、浸水被害を想定して2階以上に配置する。
その他	集客性を問わない会議室、電気室等は2階以上に配置する。

## ◆施設配置（案）



オープンカフェから有明海への眺望イメージ  
 (高さ11.5mからのドローン撮影・熊本大学)

